

論文の内容の要旨

論文提出者氏名	藤 森 尚 之
論文審査担当者	主 査 角 谷 眞 澄 副 査 青 山 俊 文 ・ 菅 野 祐 幸
論文題目	Controlled attenuation parameter is correlated with actual hepatic fat content in patients with non-alcoholic fatty liver disease with none-to-mild obesity and liver fibrosis (肥満・肝線維化が無一軽度の非アルコール性脂肪性肝疾患患者では、減衰制御パラメータが実際の肝脂肪量と相関する)
(論文の内容の要旨)	<p>【目的】</p> <p>非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) において、重症度や治療効果を判定するために、より正確で侵襲の少ない肝脂肪定量法が必要である。振動制御エラストグラフィを用いて算出される (または計測される) 減衰制御パラメータ (CAP) は肝脂肪化の存在を反映すると言われているが、その定量性は不明である。本研究では、NAFLD 患者において CAP が実際の肝脂肪沈着量を反映しているか、検証を行った。</p> <p>【方法】</p> <p>NAFLD 患者 82 名を対象とし、肝生検の直前に FibroScan を用いて CAP を測定した。生検標本での肝細胞面積に対する肝脂肪滴面積の占める割合 (肝脂肪率) を、光学画像解析システムを用いて形態学的に定量した。CAP と肝脂肪率の相関を Spearman 順位相関係数で評価し、相関に影響を与える因子を検討した。</p> <p>【結果】</p> <p>CAP は、BMI 28kg / m²未満 ($r = 0.579$、$P < 0.0001$)、特に 25kg / m²未満 ($r = 0.708$、$P < 0.01$) の NAFLD 患者において肝脂肪率と良好な相関を示したが、BMI 28kg / m²以上の患者では有意な相関は見られなかった。BMI 28kg / m²未満の患者でも、ステージ 2-4 の肝線維症がある場合は CAP と肝脂肪率の有意な相関が認められなかった。一方、CAP と肝脂肪率の相関は肝細胞膨化変性および小葉炎症の程度には影響されなかった。</p> <p>【結論】</p> <p>CAP は、无一軽度の肥満および肝線維症を有する NAFLD 患者に対して高い肝脂肪定量能を有していた。一方、BMI 28kg / m²以上あるいは中一高度の肝線維症を有する場合は定量能が著しく低下するため、CAP 測定法のさらなる改善が必要である。</p>